

## オールドルーキー

飯野海運株式会社 佐藤 平

皆様初めまして。2015年10月付けで飯野海運株式会社に入社いたしました、佐藤 平と申します。1982年2月、寒さ厳しい秋田で生を授かり33年。「ちょっとだけ」歳をとった新人船乗りとして、今この場におります。

この度、「VOICE」の原稿依頼を受けるにあたり、過去の投稿を拝見させていただきました。新人であるため長期休暇を経験したことがなく、何を書こうか思案致しました。

運よく2015年はラグビーが大いに注目を浴びた1年であり、以前ラグビーをしていた私は、その辺も踏まえ、33歳が新人船乗りになるまでを書かせていただこうと思います。

貴重なスペースをお借りして大変恐縮ではありますが、最後までお付き合い頂けると幸いです。

### 幼少期

「野球の神様」ベーブ・ルースが誕生した87年後の1982年2月6日。まだ暗闇の残る早朝5時。公務員の父、保育士の母との間に4,095gの大きな赤ちゃんが産声をあげました。体に似合わず幼いころは喘息が酷く、事ある毎に泣きながら救急病院に行ったものです。そんな私も、美味しいお米と中学まで続けた野球のお陰で、中学卒業時には182センチ82キロの少年に成長していました。

### 高校時代～地獄～

忘れもしません。新入生の身体検査当日、筋骨隆々の体育の先生に腕をつかまれ教室に連行される道中。その腕力に驚愕し、はっき

りと感じたあの感情「もう逃げられない・・・」

まだ、寒さの残る入学間もない4月のグラウンド。父に連れられ駅前のスポーツ用品店で買った、真っ白なジャージに真っ白な短パンを穿いた私は立っていました。日々、行われる苦しく終わりの見えない練習が嫌になったこともあります。

日曜日の朝、練習に行くと言って家を出た私は、人気のない裏山に行きました。バックから練習着を取り出し、土をこすり付けて汚し、自転車で6時間程フラフラしてから帰宅したこともありました。18人いた同期は2年生になる頃には8名まで減っていました。

しかし、不思議なものです。苦しい、痛い、危険、暑い、臭い、そんなラグビーに次第に魅了されていったのもこの頃でした。理由は・・・私も分かりません。しいて言うならば、きつい練習が終わった後の仲間とのバカ話が大好きでした。それがしたいがために練習を頑張っていたと言っても過言ではありません。

話が少し逸れますが、先日のラグビーW杯メンバーでもあった、コリニアシ龍、廣瀬俊朗と知り合ったのも高校時代のユース代表候補合宿でした。埼玉に上げつないトンガ人がいる。大阪の進学校にスゲー奴がいる。当時から有名人だったことはいうまでもありません。

### 大学時代～経験～

父に連れられ降り立った入寮初日の上野駅。秋田のけがれを知らない純粋な少年は、まずその人の多さにビックリします。東京に来た

のは、小学校2年生の家族旅行と中学校の修学旅行以来です。人ごみの中を颯爽と歩く父の背中には、私の方が体格では遥かに上回っているにも関わらず、大きく見えたのを昨日のこの様に思い出します。

所属した法政大学ラグビー部の寮は、1～4年生が各1人ずついる4人部屋でした。当初はその過酷さ、仕事の多さ、先輩のプレッシャー、遠距離恋愛の終焉からホームシックになりましたがaikoの「カブトムシ」を聴くことで乗り切ることが出来ました。その歌を聴くと未だに胸がキュンとします。4年間は本当に色々なことがあり、全てを書くことは不可能ですので割愛させていただきますが、何も知らない秋田の1人の少年が、ほんの少しだけ大人の階段(色々な意味を含む)を登った時期であり、佐藤 平の半分はこの時期に形成されていると言っても過言ではありません。

ここでも少しだけ話を逸れさせていただきます。先程登場したW杯戦士のコリニアシ龍。彼とは南アフリカで行われた21歳以下ラグビー世界大会で約1か月半、滞在先のホテルで同部屋でした。意外に冷え込む南アフリカの夜。なかなか寝付けずにいると、隣で寝ていたコリニアシ龍が起きだし、何も言わずに毛布をそっとかけてくれました。男が惚れる男、それがコリニアシ龍です。突然の優しさに「ありがとう」が言えず、寝たふりをした器の小さな男、それが私です。

### 社会人時代～別れ～

秋田港に入港する船を見て、憧れた船乗りという仕事。知ってしまったラグビーの魅力。今しかできないことは何か。今やりたいことは何か。私は社会人ラグビーの道を選びました。所属したNECラグビー部では、学生時代には達成できなかった「日本一」を2度経



ラグビー現役時代

験し、日本代表として活動することも出来ました。しかし、所属した7年の大半は怪我との戦いでもあり、調子が良ければ怪我をする繰り返しに苛立ちと不安、そして自己嫌悪の日々でした。高校時代、大学時代と苦しい時は山ほどありましたが、本当に悩み苦しんだのはこの時期だったように思います。怪我で体が思う様に動かず、29歳で引退を決めた時は、やり切ったという達成感よりは、もう苦しまなくていいという安堵感が大部分を占めていたように思います。

### 二度目の大学時代～そして船乗りへ～

もう一つの夢を叶えるべく、29歳で入学した東京海洋大学。私は幸せ者です。妻は生活面が不安定になるにも関わらず想いを理解しサポートしてくれました。親はもう「スネ」がありません。同級生は10歳以上も年齢が違う私を受け入れ、分け隔てなく接してくれました。先生方は学のない私に付き添い指導してくれました。途中、乗船実習科を含めた4年半という長さにな不安になる時もありました。しかし、終わってみるとこのキャンパスライフが愛おしく、最高の時間だったと強く感じ

ています。



東京海洋大学 卒業式

### 最後に

私のどうでもよい思い出話に、お付き合いくださりありがとうございました。

普段の生活の中では、これまでの人生について考えることはありません。しかし、このような原稿を書く時には過去を振り返るものです。そうすると、いかに自分が多くの人に影響を受け、助けられてきたのかを再認識することが出来ます。

今まさに始まろうとしている佐藤 平の第2章、～船乗り編～。

私がされたように、誰かの助けとなり、良い影響を与えられる人間になれるよう、日々

の修練を怠らず常に成長していきたいと思えます。33歳とは言え、エンジニアとしてはまだまだ無知で未熟な若造です。諸先輩方におかれましては、どこかでお会いした際には、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

### (参考)

ラグビーWカップ2015イングランド大会で活躍したコリニアシ龍選手はパワーとスピードを兼ね備えたNO.8（ナンバーエイト）で、攻守に渡って存在感を示す。日本の中軸選手。トンガ時代はラグビーをしておらず、日本の埼玉工業大深谷高校で始め3年で全国高校大会準優勝。埼玉工業大学を経て、2006年に三洋電機（現パナソニック）入り。弟（シオアペラトゥー）と一緒に代表入りを果たした。パナソニックワイルドナイツ所属。

廣瀬俊朗選手はエディージャパンの初代キャプテン。大阪北野高校、高校日本代表、慶応義塾大学、東芝とこれまでの経歴の中ですべてキャプテンを務めてきた。現在もリーダーグループの一員としてチームをまとめる。SO（スタンドオフ）だったが、東芝で人に強いタイプのWTB（ウイング）として開花。大学は理工学部、現在は研究所勤務と文武両道を貫いている。東芝ブレイブルーパス所属。

(J Sports HPから)



日本 対 南ア 大逆転トライシーン